



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年11月25日)

ポイント

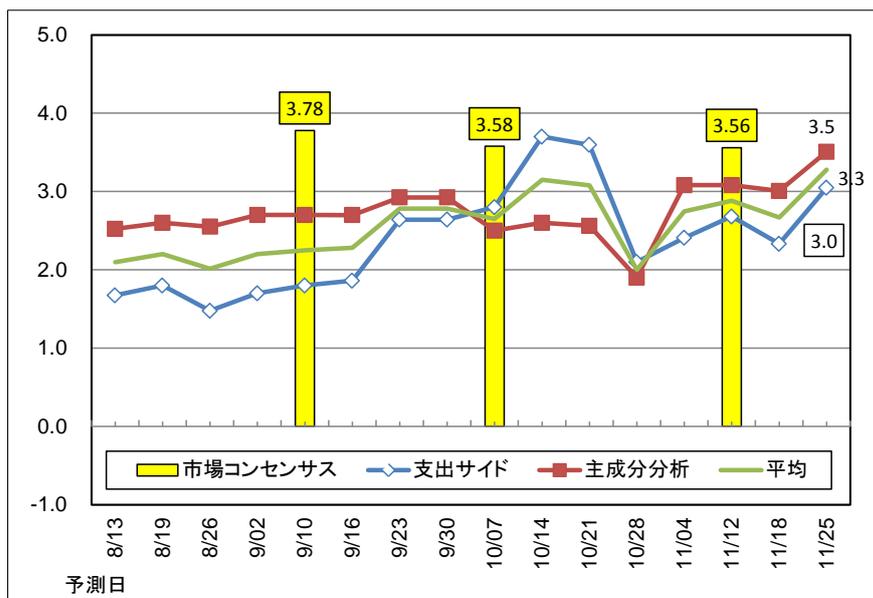
▶先週に更新されたデータで重要なものは、10月の貿易統計及び9月の建設総合統計である。これらのデータは公的固定資本形成及び純輸出の予測に影響を与える。

▶10月の公共工事請負金額は前年比大幅減速。季節調整値は3ヵ月ぶりに前月比増加したが、7-9月期平均からは低い水準。10-12月期の公共投資は前年比高めの水準で推移するが、前期比では落ち込む可能性が高い。

▶10月の貿易収支(季節調整値)は3ヵ月連続の赤字となったが、前月比-4.9%縮小した。2ヵ月ぶりのマイナス。

▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.0%と予測。公的固定資本形成と純輸出の予測値が上方修正されたため、先週(+2.3%)から上方修正となった。強い内需と外需の回復に支えられ、10-12月期成長率は再び加速するであろう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



<強い内需と外需の回復に支えられ、10-12月期成長率は再び加速>

先週(11/18-11/22)に更新されたデータは、10月の貿易統計、公共工事請負金額、9月の毎月勤労統計(確報値)、全産業供給指数、全産業活動指数、建設総合統計及び景気動向指数(改訂値)である。これらのデータは公的固定資本形成、純輸出及び雇業者報酬の予測に影響を与える。

9月の公共工事は前年比+26.7%大幅増加し20ヵ月連続のプラス。季節調整値は前月比+1.5%増加し2ヵ月ぶりのプラスとなった。結果、7-9月期は前期比+16.1%大幅増加し、5期連続の拡大である。一方、公共工事の先行指標である公共工事請負金額は10月に前年比+3.5%増加にとどまった。7ヵ月連続のプラスだが前月(同+29.4%)から伸びは大幅減速した。季節調整値は前月比+2.2%と3ヵ月ぶりに増加したが、10月実績は7-9月期平均比-3.1%低い水準にとどまっている。10-12月期の公共工事請負は前年比高めの水準で推移するが、前期比では落ち込む可能性が高い。公共工事は7-9月期のピークから減速に向かう。

10月の貿易収支は-1兆907億円と16ヵ月連続の赤字となり、前年比+96.1%拡大した。一方、季節調整値は32ヵ月連続の赤字となったが、前月比-4.9%縮小した。2ヵ月ぶりのマイナス。貿易赤字には幾分改善がみられる。

今週(11/25)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比+0.8%、同年率+3.0%と予測する。内需の寄与は前期から拡大し純輸出もプラス反転するためである。今週は公的固定資本形成と純輸出の予測値が上方修正されたため、先週(+2.3%)から上方修正となった。強い内需と外需の回復に支えられ、10-12月期成長率は再び加速するであろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690